

第3章 推進計画

1 多様なニーズに応じた学びの機会の提供 ～学習機会の充実～

(1) 市民ニーズに応じた学習の提供

現状と課題

本市では、公民館、文化センター、市民会館、青少年の家（生涯学習課）、中央図書館（中央図書館）、歴史博物館、市民ギャラリー（文化振興課）などの文化施設や、スポーツセンター、体育館（スポーツ課）などの運動施設において各種講座・教室を開催しているほか、市民協働課、子育て支援課、健康推進課をはじめとする各部署が所管の施策に応じた学習事業を展開しています。これらの講座や教室などの数は年間約650件になっています。

生涯学習に関するアンケートによると、市民が現在行っている生涯学習の内容としては「健康づくりに関するもの」と「趣味や芸術に関するもの」が特に多くなっていますが、「職業に関する知識や技能、資格取得に関するもの」、「スポーツに関するもの」、「家庭生活に役立つもの」、「ITに関するもの」、「教養を高めるもの」、「子育てや教育に関するもの」、「地域行事・まちづくり活動への参加」などにも1割以上が回答しており、活動内容が非常に多様化している様子がうかがえます。

私たちを取り巻く社会情勢は刻々と変化しており、生涯学習に求められるテーマもますます多様化していくものと考えられます。生涯学習に対する市民のニーズや満足度などをしっかりと把握し、今後の講座・教室の開催に反映していくことが必要となります。

施策の方針

① 市民の学習ニーズの把握

市民が求める学習課題に応じて講座・教室を開催していくために、講座受講生向けのアンケート、意見募集等により、市民ニーズの把握に努めます。

また、本計画の改定時期にあつては、市民全般を対象としてアンケートを実施することにより、市民の生涯学習に対する志向、経年変化等の調査・分析を行います。

② 幅広い分野での学習機会の提供

市民が自らの意思に基づき学習活動を実践し、暮らしの中で生きがいを得て、豊かな生活を送ることができるように、市民ニーズを反映させながら、学習課題を設定し、趣味・教養、文化・芸術、健康・スポーツ、福祉、国際理解、環境、ICT、男女共同参画など幅広い分野にわたる学習機会を提供します。

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
1-(1)-1	市民ニーズの把握		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習プログラム参加者、講座・教室等の受講生などを対象にアンケートを実施し、市民ニーズを把握します。 ・計画の見直し時期にあつては、市民を対象としたアンケート調査を実施し、市民ニーズを把握します。 ・企業従業員や若者世代など、ターゲットを絞ったニーズ把握のためのアンケート等にも取り組みます。
1-(1)-2	公民館等における幅広い分野での学習講座の提供		<ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館における公民館講座をはじめ、青少年向けの講座、福祉に関する講座、スポーツの講座など、幅広い分野における講座を市民ニーズに対応しつつ、各施設において企画・実施します。
1-(1)-3	まちかど講座の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・本市の各部署の担当分野について、地域の求めに応じて出前形式の学習会を開催し、施策に対する理解を深めます。 ・関係課各課の協力を得て、学習会メニューの多様化を図り、広範な分野の学習会の開催を進めます。
1-(1)-4	市民出前講座の開催	②	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自ら学び、その専門性を生かして開設している市民出前講座について、市民のニーズをとらえながら見直しを行います。 ・市民出前講座を実施する市民活動団体を増やし、講座メニューの充実を図ります。



公民館講座

(2) ライフステージに応じた学習の提供

現状と課題

本市では、子どもから高齢者までを対象とした様々な講座や教室を開講しており、その領域は非常に広範で多様なものとなっています。

ライフスタイルや価値観の多様化が進むなかで、市民一人ひとりが豊かな人生を送るためには、子ども、青少年、成人、高齢者といった各年代においてふさわしい学習課題を選択し、生涯学習活動に取り組んでいくことが必要です。

また、自分たちが暮らす身近な地域での解決が求められている地域課題に対しても、課題解決に向けた学習活動を普及させていくことも求められています。

こうした課題に対応した学習機会を用意し、自己形成、自己実現に向けて学習活動をステップアップしていくことが必要です。

施策の方針

① 各世代に求められる学習の提供

子ども、青少年、成人、高齢者などのそれぞれのライフステージに応じた多様な学習機会を提供し、市民一人ひとりの豊かな暮らしの実現に向けた学習を支援します。

② 現代的な課題や地域課題に応じた学習の提供

少子高齢化、介護、防災、環境保全、情報化、多文化共生、男女共同参画など、現代的な課題に対応していくための学習機会を提供します。

また、地域福祉、防災、環境美化、子どもの見回り・子育てなど、地域やコミュニティを単位とした課題に対応していくための学習機会を提供します。

③ ステップアップ、キャリアアップにつながる学習機会の提供

学習の進捗状況に応じて学習ニーズも変化してくることから、学習課題によっては、初級編、中級編、上級編を設けるなど、それぞれの学習段階に応じた学習機会を提供します。

また、資格講座の開催やe-ラーニング^{※8}の推進など、より高い専門的知識や能力を身につけ、キャリアアップ^{※9}につながる学習機会の提供を進めます。

※8 e-ラーニングとは、パソコンやコンピュータネットワークなどを利用して教育を行うこと。教室で学習を行う場合と比べて、遠隔地にも教育を提供できる点やコンピュータならではの教材が利用できる点などが特徴とされる。

※9 キャリアアップとは、自分の持っている技能や能力（スキル）を新たに増やして 職業や専門的な経験を生かし、経歴（キャリア）をさらに高めること。

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
■子ども			
1-(2)-1	家庭教育学級等、地域と連携した家庭教育の充実	②	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育学級の対象者を拡大し、地域と連携した家庭教育の推進を図ります。 家庭教育学級、乳幼児学級、東部ほのぼのの広場など、家庭教育に関する事業の内容、対象者、運営方法を再検討し、整理統合を図ります。 親子同士の交流の機会、コミュニケーションの場づくりを進めます。
1-(2)-2	こどものまちドリームタウンの開催 こどもの生涯学習事業	② ④	<ul style="list-style-type: none"> NPOや大学、市民などで構成される実行委員会方式で開催されているこどものまちドリームタウンを継続して開催します。 子どもを対象とした生涯学習の取組みを推進します。
■青少年			
1-(2)-3	青少年の体験学習機会の充実	②	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験学習、ボランティア体験の機会を提供し、職業意識や勤労観の育成、向上をめざします。 職場体験学習の実施にあたっては、小中学校の連携を強め、発達段階に応じた職場体験が可能となるよう、工夫・改善を図ります。
1-(2)-4	ユースカレッジ・ヤングセミナーの開催 ジュニアリーダークラブの運営	②	<ul style="list-style-type: none"> 青少年活動を推進するため、ユースカレッジ、ヤングセミナーを開催します。 子どもと大人のパイプ役となるジュニアリーダークラブを運営し、活動機会の拡充を図ります。 ニーズを見極め、活動内容の見直しを行います。
1-(2)-5	成人式の企画・運営	②	<ul style="list-style-type: none"> 新成人による成人式の企画・運営を行います。 より参加者のニーズに合った運営をめざします。
1-(2)-6 ◎ ★	若者が企画・立案する生涯学習の推進	② ④	<ul style="list-style-type: none"> ヤングセミナー、ユースカレッジ、ジュニアリーダークラブの卒業生等を中心に人材を募り、若者の企画・立案による生涯学習の展開を図ります。

◎印＝重点的に取り組む施策・事業 ★印＝作業部会からの提案と関連する施策・事業

作業部会からの提案



若い世代の社会参加促進と自己実現につながるような生涯学習 若者の若者による若者のための生涯学習プロジェクト

■背景・ねらい

今の若い人たちは、若い時代に色々な経験を積む機会が少ない。失敗をすることで子ども・若者は成長する。安城の子どもたち・青少年に新しいことにチャレンジする機会を提供してあげたい。

■取組み内容

①若者プロジェクト 参加者の募集

- ・若者の若者による若者のためのプロジェクトのための参加者を募集する。
- ・核となってくれそうな人材が数名程度集まった段階で、彼ら・彼女らの企画提案により募集方法、募集キャッチコピー、募集チラシなど、参加者の公募に取りかかる。

②チームビルディング（組織づくり）と活動の企画・立案

- ・募集に応募してくれた若者により、プロジェクトチームを組織化する。

③活動企画書に基づく実践活動

■展開方法

[短期] 募集：ユースカレッジ、ジュニアリーダー、「あんてな」、学校（高校・大学）

組織の立ち上げ。

[中期] 企画書の作成（行政と協働）、講座、イベント等の実施など。



成人式



ユースカレッジ（カヌー体験）

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
■成人			
1-(2)-7	市民大学の開催		<ul style="list-style-type: none"> 市民の新たな学習や活動のきっかけづくりと教養を高めるために、第一線で活躍する人物の講座を開催します。
1-(2)-8 ◎	現代的な課題に対応した講座の開催	② ③	<ul style="list-style-type: none"> 公民館講座において、高齢化、安全・安心、環境、情報化、国際化・多文化共生、男女共同参画などの現代的な課題に関する学びの機会を提供するための講座を企画・開催します。 庁内各課と連携を図りながら、各課で課題となっているテーマに関する講座を開催します。
1-(2)-9 ◎	市民企画講座の充実	① ②	<ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題の解決に向けて、市民自らが企画・運営する市民企画講座の充実を図ります。
1-(2)-10 ★	働き盛り世代向けの講座の充実	②	<ul style="list-style-type: none"> 働き盛り世代が関心と興味を持ってそうな講座の充実を図ります。 あわせて、働き盛り世代が生涯学習に取り組みやすい環境条件づくりについても取り組みます。
1-(2)-11	託児付き講座の開催	②	<ul style="list-style-type: none"> 本市における子育て世代の生涯学習を推進していくために必要な力となっていることから、市民活動団体の協力を得ながら、託児付き講座の充実を図ります。

◎印＝重点的に取り組む施策・事業 ★印＝作業部会からの提案と関連する施策・事業



安城市民大学



託児

作業部会からの提案



子育て世代や働き盛り世代をはじめとした多様な世代の市民が参加し、交流できる生涯学習 働き盛り地引網プロジェクト

■背景・ねらい

働き盛り世代が参加できる講座は比較的多いものの、ターゲットが明確に示されていないため情報がしっかり届いていないことから、利用に結びついていないことが考えられる。

■取組み内容

- ①ターゲット別の生涯学習情報誌（生涯学習情報誌あんでなターゲット別版）の作成・配付
- ②生涯学習関連情報サイトの充実（検索機能・予約機能等の付加などHPの充実）
- ③働き盛り世代向けの講座の充実（親子参加型講座、子育て講座、キャリアアップ講座等）
- ④働き盛り世代が生涯学習に取組みやすい環境条件づくり
（夜の講座、朝の講座、eラーニングの検討、連続講座に単発で参加できる聴講制度等）

■展開方法

- [短期] ・働き盛り世代向けの講座の棚卸し、学習ニーズの調査、不足メニューの明確化
 ・プログラム検討のための市民会議の設置、講座企画提案コンペの実施
- [中期] ・新たな働き盛り世代向けの講座の開催
 ・生涯学習情報誌あんでな・ターゲット別版の作成

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
■中高年			
【再掲】 1-(2)-8 ◎	現代的な課題に対応した講座の開催	② ③	・超高齢社会を見据え、介護や終活といった現代的テーマを学習する機会を設けます。
【再掲】 1-(2)-9 ◎	市民企画講座の充実	① ②	・現代的な課題の解決に向けて、市民自らが企画・運営する市民企画講座の充実を図ります。
1-(2)-12 ★	シニア世代の生きがい探し講座の開催	③	・定年直後あるいは定年前といったシニア世代を主な対象として、趣味・教養講座、ボランティア講座など定年後の生きがいづくりにつながる講座の開催を進めます。

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
■中高年（つづき）			
1-(2)-13	シルバーカレッジの開催	③	<ul style="list-style-type: none"> 中高年者の生きがいがづくり（仲間づくり、健康増進、能力開発、豊かな経験・知識・技術の地域社会への還元施策など）のための講座を開催します。
1-(2)-14 ◎ ★	シルバーカレッジ・ステップアップ講座の開催	③	<ul style="list-style-type: none"> シルバーカレッジの卒業生を集め、卒業後の活動を自ら企画・立案する機会を提供するため、ステップアップ講座を開催します。 この講座を通じて、シルバー層の市民のグループ化を促し、経験・知識・技術を地域社会へ還元できる場の提供を進めます。
1-(2)-15	高齢者教室の開催	③	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の社会適応能力を高め、生きがいを求める学習、健康づくり・介護予防につながる学習の機会を提供するため、高齢者教室を開催します。 今後は、地域社会の課題をテーマにした教室を増やすなどして、地域社会に貢献する人材育成をめざした学習機会の拡充を図ります。

◎印＝重点的に取り組む施策・事業 ★印＝作業部会からの提案と関連する施策・事業



シルバーカレッジ

作業部会からの提案

長寿社会を地域で豊かに生きるための大人の生涯学習 オールハッピー 安城の祭典



■背景・ねらい

第二の人生に対して不安感をもちすぎている？
能天気な第二の人生を楽しみたい！

■取組み内容

- ・きっかけ作りとしての企業の社会貢献。
- ・企業、個人、集団の取組みをアピールする場を設けて、交流を図りながら違う分野への関心を持つ。
- ・現在行われている文化祭とは違う視点での祭典
例えば、自主グループの発表、農産物コンクール、スポーツのリーグ戦（カローリング大会）、凧揚げ大会、工場見学、企業のものづくりの紹介、スタンプラリー等
- ・全市内の様々な会場で実施。

作業部会からの提案

「シルバーカレッジ」の名称を、「シニアカレッジ」に改めようと提案されました。

長寿社会を地域で豊かに生きるための大人の生涯学習 この指止まれプロジェクト シニアカレッジ・ステップアップ講座



■背景・ねらい

シルバーカレッジの受講生は、社会貢献に意欲のある人が多いにも関わらず、カレッジ終了後に卒業生をつなぐ働きかけがない。卒業生をつなげ、グループ化を目指していくことが望まれる。

■取組み内容

シルバーカレッジの同窓会連絡会の開催を呼びかける。そして、この指止まれ方式で、次のステップのための選択肢を示す講座（＝『この指止まれ講座』）を開催する。

■展開方法

[Step1]

- ・やろうと思えばすぐできる事業である。1年でできる！
- ・シルバーカレッジの各期の同窓会に「同窓会連絡会作りませんか？」と、声をかける。5期くらい遡って声掛けする。

[Step2]

- ・講座（『この指止まれ講座』）の企画を行う。企画したらすぐに開催する。
例）ふるさとガイド、読み聞かせボランティアを実際に体験するなど。

(3) 安城市の地域資源を活かした学習の提供

現状と課題

本市は、かつて「日本デンマーク」と呼ばれた農業先進地です。また、自動車産業をはじめとする工業集積地となっており、「ものづくり」に関わる人材、知恵が地域の財産にもなっています。

このほかにも、歴史文化資源、七夕まつり、三河万歳などの伝統芸能、県内唯一の自然湖沼である油ヶ淵など、個性豊かな地域資源が豊富に存在しています。

こうした地域資源に関する学びとしては、野菜づくり講座（アグリライフ支援センター）、歴史博物館での歴史講座（文化振興課）、地元企業と連携した工作講座・教室（生涯学習課）などを実施していますが、学習テーマとして取り上げることの出来る素材はまだあります。

本市の将来を担う次の世代の人々に、優れた地域資源を引き継いでもらえるように、そして地域への愛着を育てていくためにも、地域の資源を活かした学習機会を充実していくことが望まれています。

施策の方針

① 地域資源を活かした学習機会の拡充

本市をよく知る市民や活動団体と連携しながら、農業、歴史文化、ものづくりの技術・思想など、安城の特質や風土、伝統文化を活用した学習機会の拡充を図ります。

② ものづくり文化を伝承する学習の展開

本市の工業集積とともに蓄積された「ものづくり文化」を貴重な地域資源として見直し、地元企業及び技術者（現役・退職者）の協力を得て、これを学び、次の世代へと伝承していく学習事業を展開します。

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
1-(3)-1	少年少女発明クラブへの支援	④	・ものづくりを通じて豊かな発想と創造性を育むため、少年少女発明クラブの活動に対し、補助金の交付、主要企業への協力要請などの支援を行います。
1-(3)-2	歴史文化についての学習機会の充実		・本市の歴史文化の学習機会にするため、歴史博物館において企画展の開催を行うほか、関連の講座・催しを実施します。 ・都築弥厚、新美南吉など安城の偉人についての関心を高め、先人の偉業を学ぶための学習機会を充実します。

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
1-(3)-3 ◎ ★	ものづくり文化を伝承する学習プログラムの企画開発	④	・市内に立地する製造業の技術集積について、市民の理解を深め、本市の財産として継承していくことをねらいとして、新たな学習プログラムの企画開発を行います。

◎印＝重点的に取り組む施策・事業 ★印＝作業部会からの提案と関連する施策・事業

作業部会からの提案



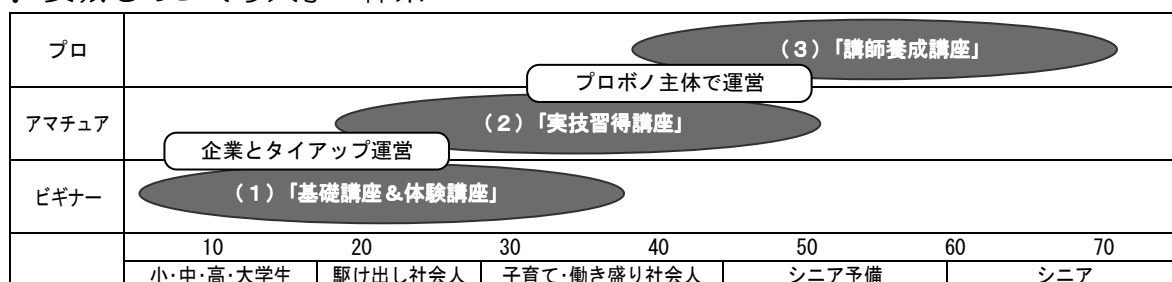
ものづくり文化の創造と次世代育成につながる生涯学習 Anjo『創る』『造る』プロジェクト

■背景・ねらい

子どもたちは、安城の「農業のすごい」は知っていても、「工業のすごい」を知らない。安城にある「すごい技」を知ってもらう。安城の財産としての「匠」の掘り起こし。

■取り組み内容

1. 安城ものづくり大学 体系



2. プログラム

(1) 基礎講座&体験講座 Step①→Step②→Step③

①安城市のものづくりのすごいを知る、しくみ・原理を知る、道具の使い方を
知る

②工場見学ツアー、匠の技の実演会

③キー技術（しくみ、原理）ごとに作る物を決め、実際に手作りを体験する

(2) 実技習得講座 実際に企業または匠の所で実技研修

(3) 講師養成講座 キー技術単位で講師養成講座を受講

■展開方法

[短期] ・タイアップしてくれる企業、匠の選定（場所、講師、道具含む）
・教材づくり（DVD）※安城のすごいについて、座学用資料作成
・プログラム検討のための市民会議の設置、講座企画提案コンペの実施

[中期] ・体験するための設備のある場所（学校？）の選定

(1) 自主グループの育成と地域の絆づくり

現状と課題

現在、地区公民館や図書館を拠点に、多くの自主的な学習グループ（自主グループ）が市内で活動しています。本市では、これらの自主グループ一覧を冊子に整理したほか、各グループの活動に関するチラシを各館に置くなどして、市民への周知、活動への参加促進に努めてきました。

また、自主グループの日常の活動の成果を発表する場として、公民館まつりや芸能まつりでの交流発表会、町内公民館での芸能活動発表会などを開催しています。これらの発表会は、自主グループ同士が交流を図る良い機会にもなっています。

一方、毎年新たな自主グループが発足していますが、グループの自主的な設立がさらに図られるよう、支援策を講じていく必要があります。また、立ち上がり直後のグループに対しては、講師選定や自主講座企画などに対する助言等を行っていますが、今後はさらに活発な活動が展開されるよう、市民活動団体等と連携して支援していくことが必要です。

生涯学習ボランティアセンターは、生涯学習に関する市民活動団体等の活動拠点として活用されています。今後は、利用団体の拡大や利用団体間の情報交換などがさらに活発に行われるように体制を整備していくことが必要です。

加えて、本市では、地区公民館やほぼ全ての町内に整備されている町内公民館において多様な学習活動が行われていることが一つの特徴です。こうした活動を通じて地域の人と人の絆を深め、より良いコミュニティを形成していくことができるよう、各町内公民館での学習活動を充実していくことも必要です。

施策の方針

① 自主グループの設立と活動の活発化に向けた支援

自主グループの設立や運営等について相談・助言するとともに、自主グループが主催する講座の開催を支援し、自主的な学習活動がより円滑かつ活発に行われるよう努めます。

② 自主グループの相互交流を通じた組織力の向上

公民館や図書館などを拠点に活動している自主グループの情報収集に努めるとともに、グループが相互に交流し学習しあう場を用意することにより、それぞれのグループがもつ企画力、広報力など組織力の向上を図ります。

③ 公民館を核とした地域の絆づくり

地区公民館及び町内公民館での講座・教室やイベントなど各種事業の実施にあたっては、地域住民の主体的な参加を得て、地域住民同士が交流を深めることができるよう、事業内容や運営方法を改善・充実します。これにより、地域の人と人の絆づくりを推進し

ます。

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
2-(1)-1	自主グループの活動発表の場の提供		<ul style="list-style-type: none"> 毎年開催される公民館まつり、芸能まつり、町内公民館芸能活動発表会、図書情報館などで学習成果の展示や発表の場を設けます。
2-(1)-2	生涯学習ボランティアセンターの充実	②	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に関する市民活動団体等の活動拠点として、生涯学習ボランティアセンターの利用促進を図ります。 利用団体の幅を広げるとともに、団体同士の情報交換の場、協働・支援の場としていくなど、より有効な利活用が図られるよう改善を図ります。
2-(1)-3	自主グループに関する情報提供、自主グループ主催講座の開催（活動支援）	②	<ul style="list-style-type: none"> 公民館講座等の参加者による自主グループの組織化を促します。また、自主グループ主催講座の開催に向けた支援やグループ活動のPRを行います。
2-(1)-4 ★	生涯学習市民ネットワークの設置	②	<ul style="list-style-type: none"> 市民企画講座や自主グループ主催講座を企画・運営した実績のある市民活動団体やグループを構成メンバーとするネットワーク会議を立ち上げます。 このネットワーク会議を母体に、市との協働により、市民による生涯学習プログラムの企画力・広報力の向上を図っていくための支援や生涯学習を進める新たなサークルやグループ等の育成支援などの活動を進めます。
2-(1)-5 ◎	地域主体による公民館活動の推進	①	<ul style="list-style-type: none"> 地域における人と人との絆づくりのため、公民館での各種事業の企画・運営の一部を地域住民に委ねていくなど、地域主体の公民館活動を推進します。 本計画を地区レベルの活動につなげていくため、地区公民館の運営計画を地域住民の参加により策定し評価するモデル事業を試行します。

◎印＝重点的に取り組む施策・事業 ★印＝作業部会からの提案と関連する施策・事業

作業部会からの提案



市民自ら企画・運営し、市民同士で、楽しみながら、学び、教える生涯学習 あんじょう生涯学習市民ネットワーク ーいつでも、誰でも、どこでもー

■背景・ねらい

新たに講座を受けてみようという人、自主グループに加入しようという人が少ない。
講座終了後に自主グループが育たない。

企画力に欠けている。

人集めや資金集めに困っているグループが多い。

グループが持続しない（魅力不足）。

■取組み内容

①あんじょう生涯学習市民ネットワークの設置

- ・市民企画講座等の企画・運営実績のある市民活動団体やグループを構成メンバーとしたネットワーク会議を立ち上げ、この会議を母体に、市との協働により、市民による生涯学習プログラムの企画力・広報力の向上を図っていくための支援、生涯学習を進める新たなグループの育成支援などを進める。

②市民企画講座の改善

- ・地域課題解決型講座の企画という目的をより鮮明にするため、行政側が地域課題のテーマを提示し、市との協働による講座の開催と開催後の活動に結び付けていくことを狙いとした「テーマ提示型市民企画講座部門」を市民企画講座メニューに追加していくことを検討する。

■展開方法

- [短期] ・既存団体の活動に参加して知ってもらって学ぶ。
・相談窓口（既存団体、生涯学習課など）の活用、PRマップ（一覧表）づくり
- [中期] ・広報力アップ講座、企画力アップ講座、宣伝力アップ講座などの開催。
・手順書の作成、自主企画相談会の開催、紹介本の作成など。

(2) ボランティア活動等への橋渡し

現状と課題

本市には、地域でボランティア活動に取り組んでいる登録団体が202団体、個人活動する登録ボランティアが197人あり、それぞれの分野で活躍しています。「ボランティアを依頼したい」「ボランティア活動をしたい」という相談が増加しており、地域のボランティアニーズの高まりが感じられます（安城市社会福祉協議会ボランティアセンター平成26年度事業報告より）。また、今後市民と行政が協働するまちづくりを展開していくためにも、ボランティア活動がより活発になっていくことが望まれています。

現在、社会福祉協議会においてボランティアセンターが運営されており、障害者支援、高齢者支援、地域福祉支援、防災など福祉活動を中心にさまざまなボランティアの育成・啓発・情報提供が進められています。市民活動センターにおいても、ボランティア養成講座などが開催されています。公民館では、高齢者教室、シルバーカレッジなどで、ボランティアに関する講座を開講しています。そこでは、ボランティア活動を学ぶ「入門編」として、ボランティア活動とは何か、その必要性、市内で活動するボランティア団体の活動事例などを紹介しています。

今後は、市内でボランティアとして活躍する市民を多く育てていくために、地域社会や人のために役立ちたいという意向を持つ市民に対して、ボランティア活動の魅力・やりがい伝える学習機会を提供するとともに、市内で活動する様々なボランティア活動に関する情報提供を行いながら、学習成果をボランティア活動等に結びつけていく橋渡し役の機能（コーディネート機能）を充実させていくことが求められています。

施策の方針

① ボランティア活動に関する情報の収集・提供と啓発

市内のボランティア活動に関する情報を収集・整理するほか、活動団体の協力を得ながら、ボランティア活動に関する講座・教室の開催ならびに情報発信を行い、ボランティア活動への参加意識を啓発します。

② ボランティア活動団体等とのマッチング

学習の成果を実際のボランティア活動、地域活動に生かしていくことができるよう、ボランティアを実際に体験してみる講座を行うなど、市民とボランティア活動団体等を結びつけるマッチングの場・機会の充実を図ります。

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
2-(2)-1	ボランティア入門講座の開催	③	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習の講座として取り組んでいる高齢者教室、シルバーカレッジなどにおいて、ボランティア活動とは何か、必要性、市内での活動事例などを紹介する「ボランティア入門講座」を開催します。
2-(2)-2	活動団体についての情報把握と情報発信	③	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動センターや社会福祉協議会などと情報共有を図りつつ、ボランティア活動団体に関する情報を発信します。 教室、講座などの機会をとらえながら、ボランティア活動への関心を喚起し、多様な市民活動が展開されるよう、啓発活動を行います。



傾聴ボランティア入門講座



親子ボランティア体験講座

(1) 生涯学習の総合的な情報提供

現状と課題

本市では、公民館講座、市民企画講座、自主グループ主催講座をはじめとして、生涯学習課以外の部局で取り組んでいる生涯学習事業も含めて、生涯学習に関する情報を掲載した情報誌「あんてな」を年4回発行し、全戸に配布しています。平成19年度に生涯学習情報誌、生涯学習ガイドブック、子ども情報誌を統合したもので、生涯学習に関する総合情報誌となっています。

なお、生涯学習に関するアンケートによると、「広報あんじょう（63.7%）」、「生涯学習情報誌あんてな（29.6%）」、「町内会・子ども会の回覧や地域住民の連絡（22.5%）」などが生涯学習情報の主な入手方法となっています。

生涯学習総合情報誌「あんてな」については、今後は市民が気軽に手にして活用していただけるよう、多様な情報提供を進めるとともに、情報を見やすく、わかりやすくしていく必要があります。

また、ICTの進展・普及により、よりタイムリーな情報発信・入手が求められていることから、より効果的な情報収集・情報発信の方法を研究し、総合的な情報発信体制を整えていく必要があります。

施策の方針

① 生涯学習に関する総合的な情報提供

市内の生涯学習情報について、各部局はもちろんのこと、教育機関、民間事業者等から様々な手段により情報を収集し、総合的な学習情報を発信します。

② いつでもどこでも情報の入手ができるしくみづくり（ICTの活用）

いつでも、どこでも学習情報の入手ができ、個人のニーズに沿った学習活動に参加できるように、ICTを活用してより便利なしくみづくりを進めます。

③ 図書情報館の有効活用

最新のICTを活用した情報拠点を生涯学習の拠点として有効に活用します。

（具体的な取組みについては、第4章参照。）

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
3-(1)-1	生涯学習情報誌の発行		<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習総合情報誌「あんでな」の発行、全戸配布を行います。 対象者別（年代別）にターゲットを絞った情報提供を行うなど、より分かりやすい、使いやすい情報誌となるよう改良を加えます。
3-(1)-2 ◎	I C Tの活用による情報提供		<ul style="list-style-type: none"> 安城市ホームページ「望遠郷」による情報提供を行います。 最新情報への更新をスムーズに行うとともに、興味を得られるページの作成に努め、使い勝手の良いサイトの運営を図ります。 図書館との連携により、生涯学習関連の情報発信について強化します。
3-(1)-3 ◎	図書館の有効活用		<ul style="list-style-type: none"> I C Tを駆使した情報の拠点としての機能を活かし、I C Tを利用した学び、地域のまちづくりに貢献できるつながり、交流づくりを進めます。

◎印＝重点的に取り組む施策・事業



図書館

(2) 相談体制の充実

現状と課題

現在、文化センター（生涯学習課生涯学習係）が、生涯学習を総合的に推進するための事務局機能を担っており、市民や活動団体等からの相談の対応にあたっています。このほか、地区公民館や図書館などでも相談を受けています。一方、様々な生涯学習の活動で実績・ノウハウをもつ団体やNPOなども、それぞれに市民からの相談に応じています。

市民の多様なニーズを学習活動に結びつけていくためには、市民一人ひとりの学習相談に応じることのできる人材ときめ細かな体制が必要です。また、市民や団体による自主活動を支援していく上でも、企画、広報、情報提供・集客などの分野で相談できる人材、体制を確保する必要があります。

今後は、生涯学習に関する総合的な推進組織として文化センターの事務局機能を充実させていくとともに、活動団体・NPOなどとの協働のしくみをより強いものへと進化させて、相談体制を充実していくことが必要です。

施策の方針

① 生涯学習の相談・コーディネートを行う人材の育成・確保

市民への学習相談、学習活動を展開しようとする団体等の事業化の相談など、生涯学習の相談・コーディネートができる人材の育成・確保を図ります。

② 活動団体との協働による相談・コーディネート体制の構築

市民企画講座や自主グループ主催講座を企画・運営した実績のある市民活動団体やグループ等の協力関係を構築し、協働による相談・コーディネート体制の構築をめざします。

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
3-(2)-1	相談・コーディネートの人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に取り組んでみたいと考える市民に対する学習相談、新しい学習活動に取り組もうとしているグループに対する活動相談などに対応できる人材の育成を図ります。 ・「生涯学習市民ネットワーク（2-(1)-4参照）」の活動と連携しつつ、人材の育成、確保を図ります。 ・各公民館での生涯学習活動をより活発にしていくために、相談・コーディネートを行う人材を配置します。
3-(2)-2 ★	相談窓口の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・文化センター（生涯学習課生涯学習係）が中心となって、生涯学習に関する総合的な相談業務を実施します。 ・「生涯学習市民ネットワーク」の活動と連携しつつ、生涯学習講座を自主企画する市民グループ等の相談に応じる相談会の開催を進めるなど市民との協働を進め、相談業務の充実を図ります。

★印＝作業部会からの提案と関連する施策・事業



相談窓口

(3) 指導者の発掘・育成・活用

現状と課題

本市には、公民館講座や自主サークル講座の指導者として多くの市民が活躍しています。生涯学習の推進には、様々な学習活動を指導し、助言するリーダーの存在が不可欠であり、様々な分野での指導者の発掘・育成の機会を拡充していく必要があります。また、発掘・育成した指導者の活躍の場の確保を図る必要があります。

生涯学習課では、公民館講座等を行った講師の情報を集約管理し、指導者の人材バンクとして活用を始めました。平成27年現在、約1,200名が登録されています。しかしながら、課内での閲覧を目的としたデータベースでしかなく、今後は、登録者情報をより多くの市民に活用していただけるように検索システムの導入などにより公開していく必要があります。

施策の方針

① 新しい指導者の発掘・育成

ステップアップ講座など、継続的な学習活動を行うことのできる機会を提供し、新しい指導者の発掘・育成を目指します。

また、地域で生涯学習活動を展開している各種団体やNPOはもとより、企業や大学などとの関係構築を図りながら、新しい指導者の発掘を図ります。

② 生涯学習指導者情報の活用（指導者バンクの構築）

現在、課内情報として整理している講師情報の有効活用を図ります。



ふるさとガイド

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
3-(3)-1	地域からの人材の発掘		<ul style="list-style-type: none"> ・防災、子育て、環境保全など地域で活躍する様々な分野のボランティアやNPOなどとの関係づくりを進めながら、各種の講座の受講生を中心としてステップアップ講座等の企画・開催により、新しい活動のリーダーとなれる人材を発掘します。
3-(3)-2	指導者の人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習市民ネットワークとの協働により、講座・研修を開催し、指導者の人材育成を進めます。 ・県が主催する生涯学習ボランティアコーディネータ養成講座などの人材育成講座に指導者の派遣を行います。 ・新たに活動を起こすことを予定している指導者に対して、市内の既存団体から活動のノウハウを学ぶことができるよう、団体や指導者の紹介などを進めます。
3-(3)-3	指導者情報の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する指導者の情報を一元的に整理し、活用を図ります。 ・生涯学習講師情報を有効かつ効果的に活用してもらえよう、情報の公開、検索システム方法などについて検討します。

(4) 生涯学習施設の維持管理と運用

現状と課題

本市の公民館としては、文化センター（中央公民館）と10か所の地区公民館が整備され、講座・イベントの会場、地域の自主サークルの活動の場として市民に幅広く利用されており、生涯学習の拠点となっています。

また、中央図書館は地区公民館図書室等とオンラインで結ばれ、生涯学習に必要な図書、資料の収集・整理、提供という重要な役割を担っています。平成18～22年度にかけて貴重図書・資料の電子化事業に取り組み、図書館ウェブサイトでの閲覧が可能になりました。

このほか、文化施設として、歴史博物館、市民ギャラリー、埋蔵文化センター、市民会館などの施設が整備されており、こうした施設を会場とした講座やイベントも開催されています。

今後は、文化センターは全市的な生涯学習推進の拠点として機能を発揮させる一方で、概ね中学校区を単位に設置されている地区公民館は、地域のまちづくりや人づくりを進めていく拠点としての性格を備えた生涯学習拠点として機能を充実していくことが求められています。

また、生涯学習に対する市民ニーズは常に変化していくことから、その時代のニーズに応じた施設となるように、計画的な修繕・改修等を図っていくことが必要です。

なお、安城更生病院跡地において、中心市街地拠点整備事業が進められており、この中の核施設として情報拠点施設(図書情報館)が平成29年6月に開設される予定です。最新のICTを活用した情報拠点を、生涯学習の拠点として有効に活用する必要があります。

施策の方針

① 生涯学習施設の維持管理

文化センター、地区公民館をはじめとする生涯学習施設について、日常的な点検を行うとともに、市民に求められている施設のあり方を見定めつつ、計画的な修繕・改修等を図ります。

② プラネタリウムとものづくりスペースの整備

文化センターの改修に合わせ、プラネタリウム・ものづくりスペースの整備を進めます。

③ 利用しやすい施設運営（生涯学習施設の運用改善）

生涯学習施設が市民にとってより利用しやすい施設となるよう、利用時間、利用に関する諸手続きの見直しなど、運用方法の改善を図ります。

主要施策・事業

No	施策・事業名	推進テーマとの関係	内容
3-(4)-1	博物館事業、体験講座等の充実		<ul style="list-style-type: none"> 市民に親しまれる施設としていくため、歴史博物館講座、体験講座、映画会などの事業を実施します。
3-(4)-2	利用しやすい施設運営		<ul style="list-style-type: none"> 文化センター、地区公民館について、より利用しやすい施設となるよう、ニーズを把握し、利用時間区分、利用料金等の見直しを進めます。 現在、文化センターで運用されている施設予約システムについて、利便性を考慮して、地区公民館等への運用拡大について検討します。



文化センター



市民会館

第2章で定めた4つの推進テーマと、第3章の推進計画に記した重点的に取り組む施策・事業との関係を再整理すると、以下のとおりです。

表3-1 推進テーマと重点的に取り組む施策・事業との関係

①	市民活動・地域活動の担い手育成につながる生涯学習
	○市民企画講座の充実 [1-(2)-9] ○地域主体による公民館活動の推進 [2-(1)-5]
②	市民自ら企画・運営し、市民同士で、楽しみながら、学び、教える生涯学習
	○若者が企画・立案する生涯学習の推進 [1-(2)-6] ○現代的な課題に対応した講座の開催 [1-(2)-8] ○市民企画講座の充実 [1-(2)-9]
③	長寿社会を地域で豊かに生きるための大人の生涯学習
	○現代的な課題に対応した講座の開催 [1-(2)-8] ○シルバーカレッジ・ステップアップ講座の開催 [1-(2)-14]
④	ものづくり文化の創造と次世代育成につながる生涯学習
	○若者が企画・立案する生涯学習の推進 [1-(2)-6] ○ものづくり文化を伝承する学習プログラムの企画開発 [1-(3)-3]

なお、図書館については、生涯学習関連の施策・事業を高度化していく上で非常に期待される事業であることから、関連する下記の施策・事業についても重点的に取り組む施策・事業と位置づけています。

(第4章では、図書館ICT化基本構想をベースに、図書館のICTを活用した生涯学習を推進する観点から、主体的に取り組む事業を整理します。)

表3-2 図書館のICTを活用した生涯学習と重点的に取り組む施策・事業との関係

	図書館のICTを活用した生涯学習
	○ICTの活用による情報提供 [3-(1)-2] ○図書館の有効活用 [3-(1)-3]